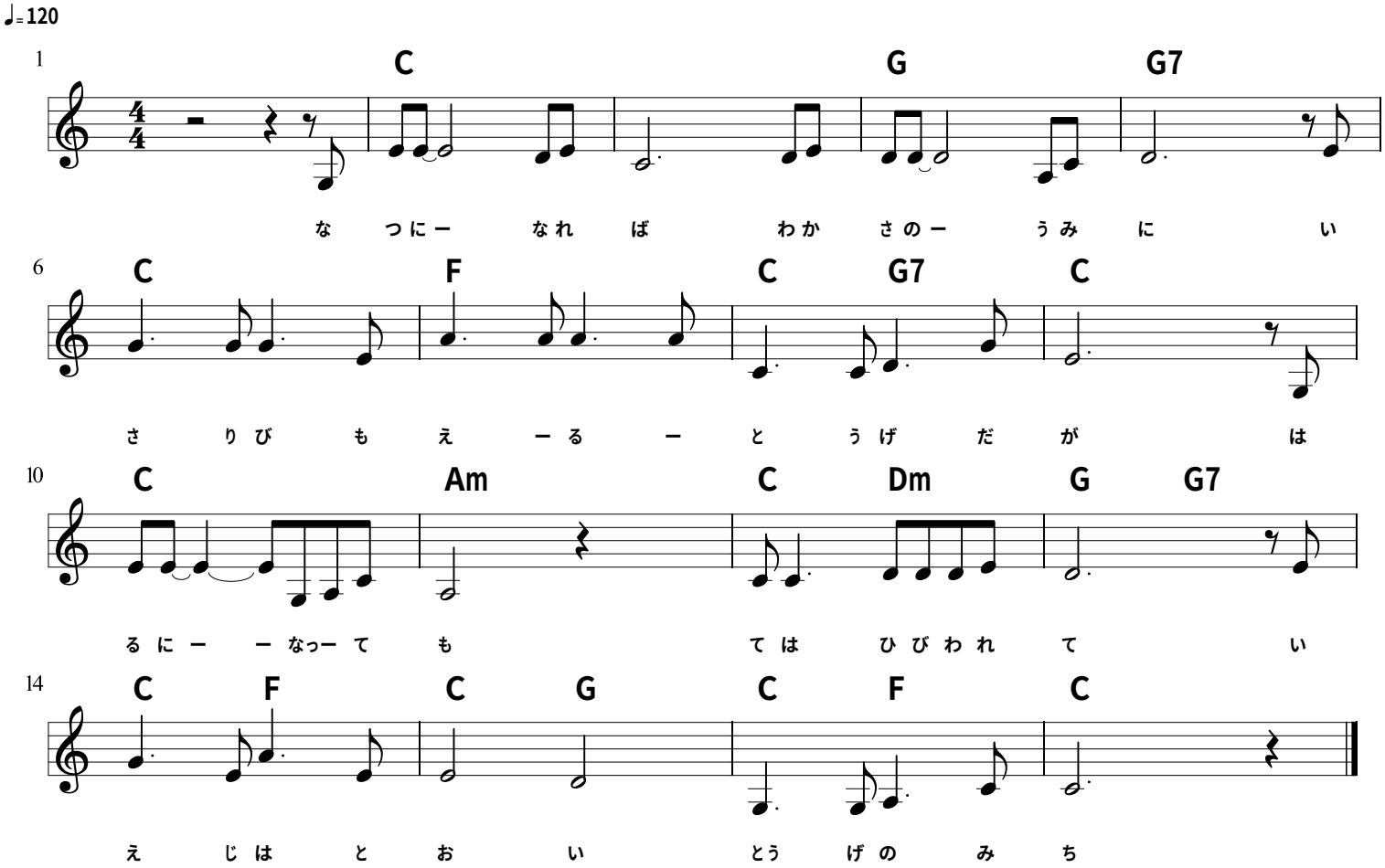
駒倉峠

安田　潤　詩・曲



1　夏になれば　若狭の海に　漁火もえる　峠だが
　　春になっても　手はひびわれて
　　家路は遠い　峠の道

2　秋になれば　道端に
　　りんどう花咲く　峠だが
　　冬になったら　雪崩におびえ
　　吹雪に迷う　峠の道

3　沢に光る　ネコヤナギを
　　見おろし歩く　峠だが
　　春夏秋冬（はるなつあきふゆ）　喜び悲しみを
　　背中に　背負い　峠の道

元中学校上世屋分校教諭安田先生の作品。駒倉（こまくら）とは上世屋よりさらに奥の集落であったが廃村。4回目のコンサートで発表。5回目のコンサートでは、上世屋婦人会のおばちゃん達が万感の想いを込めて歌った。